

小林 志保子

Kobayashi Shihoko

素材のこと

パネルに水張りした画用紙の上にカーボン紙、その上に方眼紙をのせて固定し、方眼紙のマス目に定規を当てながら線を引いていく。

これを延々と繰り返す。

線が転写されている画用紙（完成画面）が見えない状態で、

どんな具合かいちいち気になるが、見たいのをこらえて最後まで引く。

自分の手が描くものをカーボン紙で転写するのだから、どうなるのかはある程度想像がつくものの、覆っている紙をゆっくりとめくり、下から現れる画面と対面する瞬間は、新鮮みがあってドキドキする。

わずかな圧力や摩擦さえも写し取ってしまうカーボン紙を介して

ペン先から画面へと自分の呼吸や調子、緊張やためらいまでも伝わる。

息を詰めて一本一本を描きながら、そんなところにおもしろさを感じている。